

日本古代の宗教と社会

矢野 建一 著

A5判 函入り・上製 400頁 定価(本体12,000円+税) ISBN 978-4-8273-1299-7 平成30年11月刊

日本古代の神祇祭祀を中心に、地域史的視点を有し、
仏教・東アジア史まで視野に入れ、考古学や民俗学の成果も取入れた
古代祭祀・宗教研究の集大成。

本書は、日本古代における宗教・祭祀研究を第一線でリードし、2016年4月25日に亡くなられた矢野建一氏の研究業績の中から主要な論文18本を選び、4部に構成・収録した論集である。

著者の研究の射程はまことに広大で、古代神祇祭祀研究を中心に、古代地域史、古代仏教史、個別氏族研究、そして近年は遣唐使論を中心にした古代東アジア交流史にまで及ぶ。一方で、その多面的な研究には、古代宗教・祭祀を社会との構造連関の中でとらえる視点が一本の幹として太く貫かれている。とりわけ、1980年代以来、著者が地域社会の首長制的な構造、また社会を総括する権力としての律令国家の成立・変容過程の解明を目指すなかで、古代神祇祭祀・仏教史研究の深化が図られていることは特筆に値すべき点である。さらに、六国史や古代の法制史料はもちろん、木簡・墨書土器などの出土文字史料、仏典の写本などの幅広い古代宗教関係史料を博搜し、テキストに対して新たな角度から光を当てた明快な実証も本書の大きな魅力のひとつとなっている。また、著者は中国で「日本」国号を刻んだ遣唐留学生・井真成の墓誌を最初に発見した研究者のひとりとして知られている。本書には、著者の研究生生活後半の業績である、東アジア世界の中に日本古代の祭祀・儀礼を位置づけた諸論考が収録されている。

読者は、著者のあふれ出る豊かな着想に魅了されるとともに、古代の宗教・祭祀を介して、村落というミクロの地点から国家そして東アジア世界というグローバルな社会をも見通す洞察に、改めて歴史の奥深さをうかがい知ることができるに違いない。

【矢野 建一】1949年長野県生まれ。立教大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。専修大学学長等を歴任。専修大学名誉教授。2016年逝去。

— 主要目次 —

第一部 神祇令祭祀の構造

- 第一章 律令国家の祭祀と天皇
- 第二章 日本律令国家祭祀の等級について
- 第三章 天下(四方)大祓の成立と公民意識
- 第四章 八・九世紀における大嘗祭の斎戒と祭日

第二部 古代村落祭祀の構造

- 第一章 律令国家と村落祭祀
- 第二章 神祇令供祭祀と地方官祭祀
- 第三章 日本古代の「村社」と「官社」
— 「磯嚙」と「清掃」を中心として —

第三部 地域社会の神社と祭祀

- 第一章 「神火」の再検討
- 第二章 古代武蔵の官社について
- 第三章 信濃国小県郡の生嶋足嶋神社について
- 第四章 縮川流域の集落遺跡と貫前(抜鉢)・宇去神社
- 第五章 「あなし」攷
- 第六章 梶子遺跡出土の祝詞木簡と「伎人堤」
- 第七章 『多度神宮寺伽藍縁起并資財帳』の史料的特質

第四部 日本古代の祭祀・儀礼と東アジア世界

- 第一章 飛騨の両面宿禰と方相氏
- 第二章 飛鳥寺の仏舍利埋納前段儀礼と方相氏
- 第三章 日本古代の「郊祀之礼」と「天刀契」
- 第四章 遣唐使の派遣と春日山祭祀

解説 矢野建一氏の古代祭祀研究(西宮秀起) あとがき 索引

株式会社 塙書房 〒113-0033 東京都文京区本郷6-8-16 TEL: 03-3812-5821 FAX: 03-3811-0617